

広報用実績のまとめ

平成 30 年度

<p>● 団体名</p> <p>備前焼中世古窯復元「土窯」プロジェクト委員会 代表者 平川 忠 記載者 赤井 夕希子</p>
<p>● 所在地（市区町村名のみ）</p> <p>備前市新庄</p>
<p>● 活動目的</p> <p>土窯プロジェクト（中世備前焼の復元）で得た成果を活用した備前焼業界の活性につながるような魅力を発信すること。</p>
<p>● 団体の紹介</p> <p>古窯復元「土窯」プロジェクトは平成元年より陶芸家平川忠個人ではじめた活動ですが、次第に考古学者や美術関係者、若手陶芸家が加わり、2014年に備前焼中世古窯復元「土窯」プロジェクト委員会が設立しました。当委員会は備前焼中世古窯の忠実な復元・焼成技術の再現を目的として活動を重ねた結果、ほぼ当時のことが解明できています。その研究成果を海外、国内で情報発信するために活動しています。</p>
<p>● 助成を受けての活動内容</p> <p>具体的には中世古窯復元「土窯」プロジェクトの活動と備前焼の歴史についての講演会を3回（11/6、12/21、2/19）、パワーポイントや陶片などを利用し視覚的に理解しやすく講演を行いました。陶芸体験は4回（2/9、2/19、3/10、3/17）、現代技法である電動ろくろを使わず、中世の備前焼で使われていた“備前段継ぎ技法”を活用した備前焼づくり体験を行いました。窯焚き公開ワークショップ（窯詰め：12/11～12/13、窯焼成：12/14～12/17、窯出し：12/21～12/23、1/20）、700年前のレンガを使わず土と石のみで築窯した古窯復元「土窯」を使っての窯焼成の工程を実際に行い、それに必要な、薪づくりも併せて実施しました。土窯&古窯跡見学会を6回（11/17、12/27、2/5、2/24、3/2、3/15）、窯跡見学会では中世～近世の窯跡の一部（今回は合計18ヶ所）を案内し、さらに備前焼粘土の素となる岩などの説明も併せて行い、備前焼について総合的に学ぶ機会をつくりました。一度に大人数ではなく、開催日を増やして少人数を対象にワークショップすることで、スケジュール調整がつきやすく、なお且つ関心のある方々にとって濃密で有意義なワークショップを開催することができました。さらに、講習会などで歴史を学んだ後に古窯跡を訪れるなど、知識的学習と体験的学習を合わせ、連動させるワークショップをすることで、より関心も高まり理解を深めるようになり、一過性で終わらせず、次につながる学習の場をつくるように意識しました。</p>
<p>● 助成を受けての成果</p> <p>助成を受け活動を実施し回数を重ねることで、備前焼の歴史への関心度が随分と高まりました。また、地元での認知度も高まり、備前市からの要請で平川忠土窯の取り組みを紹介する15分のケーブルテレビ番組制作が行われ、現在もインターネット上にも掲載されています。さらに、この取り組みをSNSで発信したところ、海外からのコンタクトが増え、より国内外の人々へ歴史を踏まえた備前焼の文化的価値観への理解と一層の興味を高めることへの貢献につながりつつあります。</p>
<p>● 今後の活動の課題点</p> <p>これらの活動に興味関心を示している海外からの来訪者の受け皿づくりを急ぐ必要性を感じています。また、これらの文化的活動を続けていく為には時間を有するため、長期的な観点からの人材育成も課題であると思っています。</p>
<p>● 問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)</p> <p>〈Facebookページ〉平川忠/土窯プロジェクト-Tsuchigama Project https://www.facebook.com/tsuchigama 〈平川忠工房〉TEL/FAX 0869-66-7022</p>



中世古窯復元「土窯」プロジェクトの活動と備前焼の歴史についての講演会 左: 11/6、右: 12/21



土窯 & 古窯跡見学会
左上: 11/17、右上: 12/27、
左下: 2/5

陶芸体験 右下: 2/9



古窯復元「土窯」を使っでの公開ワークショップ(窯詰め: 12/11~12/3、窯焼成: 12/14~12/17、窯出し: 12/21~12/23)

左上: 復元焼成用の薪づくり(赤松のみの焼成でないのが中世の特徴) 12/14、右上: 窯焼成 12/17、左下: 窯出し 1/20

